

## 2010年1月

日時	発言者	内容	市場への影響
1月4日	デューク FRB理事	米経済は部分的に潜在成長率を下回る拡大にとどまるため、インフレは「抑制された状態が続き、2010年の経済活動は今後も緩やかに回復するだろう。」との見方を示した。(ノースカロライナ州の講演で)	-----
1月7日	菅財務相	「もう少し円安が望ましい。」「経済界では90円台半ばが適切だととの意見が多い。」財務大臣就任での記者会見で。	92円15近辺 →92円台後半へ。NYでは93円台半ばまでドル高が進む。
1月8日	ローゼングレン・ボストン連銀総裁	雇用は「失業率を大きく引き下げるほどの速度では回復しそうにない。」雇用統計の発表を受けて。	-----
1月26日	ウェーバー・ドイツ連銀総裁	ECBは非伝統的な流動性供給策の巻き戻しを「推し進める」。「金融政策の正常化は議題に上がっている。」と述べた。(独ハンブルグの講演で)	-----
1月27日	ホーニング・カンザスシティー連銀総裁	「長期にわたる超低金利の維持はもはや正当化されない。」として、FOMCで低金利継続に反対票を投じた。	ドル円89円台前半 →90円台乗せまでドル高円安に。

## 2010年2月

日時	発言者	内容	市場への影響
2月4日	トリシェ・ECB総裁	「われわれはギリシャ政府が目標を達成するためのあるゆる決断を下すと予想、確信している。」政策金利据え置き決定後の記者会見で。	-----
2月9日	オリレーン・EU経済担当委員	「われわれの支援を受けるにあたり、ギリシャは必要な措置を講じる必要がある。」また、ドイツの議員2人は、同国がギリシャの支援を検討していると語った。	ユーロドル1.37台半ば→1.38台に。ユーロ円122円台→124円台前半に。
2月19日	ブラード・セントルイス連銀総裁	「投資家は公定歩合引き上げを、早期引き締めを意味するものと受け止めるべきではない。」公定歩合引き上げを決めた翌日の講演で。	-----
2月19日	ロックハート・アトランタ連銀総裁	「われわれが年後半に利げする公算が大きいとの市場の見方は行き過ぎだ。」公定歩合引き上げを決めた翌日の講演で。	-----
2月19日	ダドリー・NY連銀総裁	「FRBが重視しているのは雇用と成長。」ペルトリコでの講演で。	-----
2月19日	スティーブンス・RBA総裁	「景気が期待通り回復すれば、金融政策を一層引き締める必要が生じる。」下院の経済常任委員会で。	-----
2月24日	バーナンキ・FRB議長	「(政策金利は)長期間、異例の水準を維持するのが妥当だ。」下院での議会証言で。	ドル円90円台前半→89円台半ばへ

## 2010年3月

日時	発言者	内容	市場への影響
3月2日	スティーブンス・RBA総裁	「金利を通常の水準に戻すことが適切と判断した。」政策金利引き上を決定した後での会見で。	-----
3月4日	トリシェ・ECB総裁	「(ギリシャ問題に関しては)必要なら断固とした共同歩調を取る。」「危機対策は段階的に縮小する。」政策金利据え置きを決定した後での会見で。	-----
3月7日	サルコジ・仏大統領	「明確にしたいのは、必要となれば、ユーロ圏諸国が約束をはたすだろうということだ」「この点に関しては疑問はあり得ない」財政問題でパッパンドレウ首相と会談後に。	-----
3月16日	ホーニング・カンザスシティー連銀総裁	「FF金利誘導目標を異例の低水準にわたって設定する可能性を引き続き示すことは、金融の不均衡を助長し、金融の安定へのリスクを高める恐れがあるため、もはや正当化されない」FOMCで反対票を投じた後の会見。	-----
3月26日	トリシェ・ECB総裁	「ユーロ圏諸国の政府が実行可能な解決策を見出したことに極めて満足している」EU首脳会議でギリシャ支援で合意に達した後に。	ユーロドル1.3台半ばから1.34台へユーロ高に。
3月28日	ウェーバー・独連銀総裁	「(欧州景気の先行きは)まだ良き回復になる」「物価上昇のリスクは少なく、金利水準は適切だ」日経新聞の取材に答えて。	-----
3月30日	エバンス・シカゴ連銀総裁	「米失業率は今年末まで9%超に高止まりし、低金利を2011年まで続ける必要が生じる可能性がある。」ブルームバーグとのインタビューで。	-----

## 2010年4月

日時	発言者	内容	市場への影響
4月2日	ガイトナー・米財務長官	「われわれが取り組むべき作業はなお多く残されているが、米経済は確実に強くなっているよ考える」ブルームバーグテレビジョンとのインタビューで。	-----
4月4日	サマーズ・国家経済会議委員長	「雇用創出のプロセスが始まった。雇用は加速する見通しだ」ABCテレビとのインタビューで。	-----
4月6日	ラッカー・リッチモンド連銀総裁	「低金利を(長期にわたり)維持するとの声明の表現に、依然として違和感は抱いていない」FOMC議事録公開後のNBCとのインタビューで。	-----
4月7日	バーナンキ・FRB議長	「危機からの脱却からは程遠い状況にある」「雇用は引き続き非常に脆弱だ」ダラスでの講演で。	ドル円93円後半→93円前半へ。
4月8日	トリシェ・ECB総裁	「ギリシャがデフォルトに陥るとは考えていない」理事会で政策金利据え置きを決た後の会見で。	(ギリシャの財政赤字が縮小とのニュースと併せ)ユーロドル1.32台後半→1.33台半ばへ。ユーロ円123円台半ば→125円台に。
4月11日	ユーロ圏16ヶ国声明	3月25日のユーロ圏首脳の声明を受けて、ユーロ圏各国は、域内全体としての金融の安定を守るためにギリシャに対して必要な場合に提供される金融支援の条件に合意した。	ユーロドル1.34台後半→1.36台半ばへ。ユーロ円125円台半ば→127円台に。
4月14日	バーナンキ・FRB議長	「失業が減り雇用が上向く兆候がでている」しかし「過去2年間に失った雇用を取り戻すには極めて長い時間がかかる」と議会で証言。	ドル円93円台半ば~→92円台後半へ。
4月23日	スティーブンス・RBA総裁	「現在の政策金利は過去10年程度の平均に近くなっている。」追加利上げに慎重な見方を示す。	-----

※尚、このサイトは情報提供を目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。  
投資の最終判断はご自身でなさるようお願い致します。  
本サイトの情報により皆様に生じたいかなる損害については弊社及び執筆者には一切の責任を負いかねます。

## 2010年5月

日時	発言者	内容	市場への影響
5月6日	トリシェ・ECB総裁	ギリシャ国債購入について「政策委員会はその問題を協議しなかった」ECB理事会後の会見で。	ユーロドル1.27台→1.25台に。ユーロ円118円台→110円台に。
5月26日	ガイトナー・米財務長官	「EUの支援策は適切だが、金融市場は具体的な行動を求めていた」英財務相との会談後の記者会見で。	ユーロドル1.27台→1.25台に。ユーロ円118円台→110円台に。

## 2010年6月

日時	発言者	内容	市場への影響
6月1日	李克強・中国副首相	米経済は部分的に潜在成長率を下回る拡大にとどまるため、インフレは「抑制された状態が続き、2010年の経済活動は今後も緩やかに回復するだろう。」との見方を示した。(ノースカロライナ州の講演で)	-----
6月5日	ゲイトナー・米財務長官	「もう少し円安が望ましい。」「経済界では90円台半ばが適切だととの意見が多い。」財務大臣就任での記者会見で。	92円15近辺 → 92円台後半へ。NYでは93円台半ばまでドル高が進む。
6月7日	バーナンキ・FRB議長	「米景気が二番底に陥る可能性は低い」下院での議会証言で。	NY株式市場が上昇し、為替市場ではドル高に。
6月10日	ゲイトナー・米財務長官	ECBは非伝統的な流動性供給策の巻き戻しを「推し進める」。「金融政策の正常化は議題に上がっている。」と述べた。(独ハンブルグの講演で)	-----
6月14日	泰剛・中国外務省副報道局長	「長期にわたる超低金利の維持はもはや正当化されない。」として、FOMCで低金利継続に反対票を投じた。	ドル円89円台前半 → 90円台乗せまでドル高円安に。

※尚、このサイトは情報提供を目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。  
投資の最終判断はご自身でなさるようお願い致します。  
本サイトの情報により皆様に生じたいかなる損害については弊社及び執筆者には一切の責任を負いかねます。

## 2010年7月

日時	発言者	内容	市場への影響
7月6日	スティーブンス・RBA総裁	「内外の需要や物価の追加情報が得られるまで現在の金融政策が妥当だ」政策金利据え置きを決めた後の会見で。	豪ドルは対ドルで0.83台後半から0.84台後半に。
7月8日	トリシェ・ECB総裁	「欧州は緩やかな景気回復が続いている」としながらも「高い不確実性があり、回復にはばらつきがある」理事会後の記者会見で。	ユーロドル1.26台半ば→1.27台乗せ。
7月13日	レンデルス・EU議長 (ベルギー財務相)	「われわれが最大限の透明性を望んでいることは明らかだ」「必要ならあらゆる措置を取る」EU財務相会合後の記者会見で。	ユーロドル1.25台→1.27台乗せ。
7月21日	バーナンキ・FRB議長	「米景気は異例なほど不透明だ」上院の議会証言で。	NY株式市場は全面安。

## 2010年8月

日時	発言者	内容	市場への影響
8月2日	バーナンキ・FRB議長	「米経済の完全な回復までには相当な道のりが残っている」 「家計や企業の支出増加が持続的な成長に寄与するはずだ」サウスカロライナ州チャールストンでの講演で。	NYダウが200ドルを超える上昇の一要因に。
8月5日	トリシェ・ECB総裁	「7~9月期について入手できたデータは予想より良好だ」「市場の機能は若干改善している」政策委員会後の記者会見で。	ややユーロ高に振れる。
8月5日	ジョセフ・スティグリツ 米コロンビア大学教授	米経済が「活気のない景気回復に直面しており、米政府はよりよく計画された新たな景気刺激策が必要になるだろう」 ブルームバーグテレビジョンのインタビューに答えて。	-----
8月13日	ホーニング・カンザスシティー連銀 総裁	「回復を一段と加速させる目的でゼロ金利が継続されれば、予期せぬ結果や不確実性をもたらすため、 プラスであると同様にマイナスとなる公算が大きい。」ネブラスカ州の講演で。	-----
8月20日	ウェーバー・ドイツ連銀総裁	「出口戦略続行に関する議論の大半は、第1四半期に集中しておこなわれると考えている」と述べ、緊急の融資措置を解除する時期を決定するのは来年1~3月にすべきとの認識を示す。(ブルームバーグテレビジョンでのインタビュー)。	ユーロドル1.27台半ば→ 1.26台後半へ。
8月24日	エバンス・シカゴ連銀総裁	「全般的な景気回復の兆候と住宅価格の安定化の兆しが一部にあるものの、まだ難局を脱していない」 「緩和的な金融政策が適切だ」ミネアポリスでの講演で。	-----

## 2010年9月

日時	発言者	内容	市場への影響
9月2日	トリシェ・ECB総裁	「想定よりも輸出が好調で、一部では内需も貢献した」「景気が失速することはない」理事会後の記者会見で。	ユーロは対ドル、対円でやや上昇。
9月8日	野田・財務大臣	「当然(円売り)介入も含んでいる」衆議院財務金融委員会で、円高が進んだことに答えて。	海外市場で介入近しとの印象を与え、ややドル高に。
9月13日	トリシェ・ECB総裁	「デフレリスクは見えない」「二番底になるとは思っていない」BIS総裁会議での記者会見で。	ユーロは対ドル上昇1.28台後半へ。
9月15日	グリーンズパン・前FRB議長	「介入の効果は限られ、機能はしない」日銀の市場介入に関してNYでの講演で。	-----
9月16日	ドット・米下院銀行委員長	「日本であれ、中国であれ、単独介入は国際協調との落差を象徴している」議会の公聴会で。	-----
9月29日	プロッサー・フィラデルフィア連銀総裁	「現時点での資産購入の拡大は、利点がほとんどなく、一定のコストが予想されるため、見送るべきだ」ニュージャージー州での講演で。	-----

## 2010年10月

日時	発言者	内容	市場への影響
10月2日	ダドリー・NY連銀総裁	「経済見通しが、雇用とインフレの双方がと遠くない将来に改善する確信を深められる方向で変化しない限り、一段の行動が正当化される公算が大きい」講演で。	ドル全面安の展開に。
10月2日	温家宝・中国首相	「ユーロ圏の国々やギリシャが危機を克服するのを支援したい」パパンドレウ・ギリシャ首相との会談で。	-----
10月6日	ガイトナー米財務長官	「通貨の価値を押し上げる市場の圧力が強まるなか、これに抵抗しようとする国が増えている」 また、先月行われた日本の為替介入については国際的な緊張をあおってはいないと述べた。	-----
10月7日	トリシェ・ECB総裁	ユーロが上昇していることに関して「実体経済を反映すべきで、過度な乱高下は経済の不安定要因になる」理事会後の会見で。	ユーロドルは1.40台前半から1.38台に。
10月7日	ストロスカーン・IMF専務理事	「為替を経済政策の武器として使うのは世界経済にとって好ましくない。」記者会見で。	-----
10月11日	イエレン・FRB副議長	「低金利は企業のリスクテイクを奨励しかねない。金融緩和というお酒の入った<パンチボウル>をテーブルから下げる準備を当局は整える必要がある」副議長就任後初めての講演で。	-----
10月15日	バーナンキ・FRB議長	「何も変化がなければ、FOMCの二重目標に基づき、さらなる行動を取る状況になりそうだ」ボストンの講演で。	ドル全面安に。円、一時80円88銭を記録。
10月21日	ガイトナー米財務長官	「ドルが対ユーロや円でこれ以上下落する必要はない。ユーロと円はほぼ整合的な水準」 ウォール・ストリート・ジャーナル紙の電子版に掲載。	ドルが主要通貨に対して上昇。 円81円 →81円77レベルまで下落。
10月22日	ガイトナー米財務長官	「米国の政策は強いドルを支えるものだ」「世界の金融安定化に向けて特別の責任があることを認識している」G20後の記者会見で。	-----

## 2010年11月

日時	発言者	内容	市場への影響
11月2日	スティーブンス・RBA総裁	「直近のインフレ統計は予想の範囲内だが、中期的な物価上昇懸念が残る」今年4度目の利上げを決めた後の記者会見で。	利上げを受け、豪ドル/米ドル0.98台後半から0.99台後半へ。
11月2日	ボルカー・元FRB議長	「量的緩和は将来にインフレを生む可能性がある」「米国の失業率が近い将来低下する可能性は低い」シンガポールでの講演で。	-----
11月4日	トリシェ・ECB総裁	「市場に供給する資金量の削減については、次回会合で議論する」記者会見で「出口戦略」を匂わす発言。	ユーロ高に。
11月8日	ユンケル・ユーロ圏議長	「(FRBの決定は)リスクが増え、世界経済への影響が拡大する恐れもある。対ユーロでのドルはしかるべき水準に無い」欧州議会の経済・金融委員会で。	ユーロ高に。
11月10日	メルケル・独首相	「だれもバブルを望んではいない」「G20サミットでは出口戦略を話し合う必要がある」G20参加前の記者会見で。	-----
11月13日	トリシェ・ECB総裁	「危機対応でECBが導入した全ての非伝統的な措置は一時的な性質のものだ」ドイツでの講演で。	-----
11月18日	ウォーシュ・FRB理事	「金融政策をめぐる意見の相違を政治化させるべきではない。FRBの独立性は重要だ」シカゴでの講演で。	-----
11月30日	バーナンキ・FRB議長	「米経済は失業率を大きく下げるほど十分な速度で成長していない」と指摘し、雇用創出が最優先課題であるとの認識を示す。(オハイオ州での会合で)	-----

## 2010年12月

日時	発言者	内容	市場への影響
12月1日	ボス・国連チーフエコノミスト	オバマ政権と議会が追加の景気対策で合意しなければ、景気が来年に二番底に陥り、失業率は10%に上昇する可能性がある。」 と指摘。(世界経済に関する国連の分析で)	-----
12月2日	トリシェ・ECB総裁	「ユーロ圏の不確実性は高い」「緊張があり、これを考慮しなければならない」(ECB理事会後の記者会見で)	ユーロドル1.31台半ばから1.32台半ばに
12月9日	ECB月例報告	「少数の金融機関は中央銀行の供給する流動性に過度に依存しており、借り換え全体で相当な割合を占めている」	-----
12月17日	メルケル・独首相	「私のビジョンでは、欧州はより緊密に共に成長するが、場合によってはスピードは異なる」	-----